

自分らしいキャリア～やりたいことに正直に～

【開催日】2022 年 10 月 21 日（金）12:15～13:15（オンライン開催）

【講師】塩谷 優子 先生（ダイキン工業株式会社 TIC 担当課長）

今回は、2007 年 3 月に京都大学大学院工学研究科高分子化学専攻で博士（工学）の学位を取得後、ダイキン工業株式会社に就職され、現在は、同社の TIC（テクノロジー・イノベーションセンター）で担当課長として勤務されている塩谷優子先生に、大学入学前から現在に至るまでのターニングポイントにおける選択とその背景について、ご講演を頂きました。

1. 自己紹介

私が今まで歩んできたキャリアには、自分で選んだ道だけでなく、もちろん外的要因で開かれた部分もあります。しかし、その所々でどのように考えて判断してきたのかという部分を振り返ってみると、自分らしくやりたいと思ったことを基準に選んできたと思っています。それを踏まえて、今回は「自分らしいキャリア～やりたいことに正直に～」というタイトルとさせて頂きました。（フライヤーの）プロフィールにもありますように、大学は京都大学ですが、出身は東京で都立高校を卒業しました。その後、京都大学工学部の工業化学科に入学し、高分子化学専攻の修士課程、博士課程に進みました。そして、2007 年 3 月に博士課程を修了した後、同年 4 月にダイキン工業株式会社に入社致しました。

2. ターニングポイント①：京都へ

これまでの自分を振り返ってみると、幾つかのターニングポイントがあったと思います。まず 1 つ目は、高校を卒業して、京都へ行くと決めた時でした。東京出身ということもあり、高校や地元の同級生は、都内の大学に進学する方がほとんどでした。東京には、国公立と私立の大学がたくさんあるので、実家を出て他の地域の大学に行くという発想すらありませんでした。家から通える範囲の国公立かなと漠然と考えていました。高校 3 年生の 11 月に志望校のキャンパスを見に行ったら、理系のキャンパスということもあり、これまでの共学のクラスの賑やかな雰囲気とはかなり異なり、ちょっとイメージと違うなという印象を持ちました。そこから、大きく受験科目を変更することなく受験できる国公立ということで京大に決めました。その時点では、京大に行くことすなわち親元を離れるということあまり現実の事として捉えていなかったと思います。何かしらの強い意志があったわけではなかったのに、いざ、京都に引っ越すとすると、実家や友達とも離れますし、関西には全く知人もいなかったため、行きたくないという後ろ向きな気持ちでした。ただ、母からも「就職と一人暮らしが同時に始まるのは大変なので、学生のうちに一人暮らしを経験した方がいい」とのアドバイスもあり、また自分自身も、行きたくないと思いつつも、最終的には京都に行くことを選ぶだろうなと直感的に感じていました。京都での学生生活が私にとって本当にかけがえのない出会いにあふれた貴重な時間だったので、母が強く背中を押してくれたことにとっても感謝しています。

3. ターニングポイント②：修士課程修了後、博士課程へ

2 つ目のターニングポイントは、修士課程を修了する時でした。理系の学部だったので、学部で卒業して就職する方はごく稀で、ほとんどが修士課程に進み、私自身も進学しました。ただ、修士課程修了後に博士課程に進む人は、全体の 10%前後しかいない状況だったため、修士 1 回生の終わり頃には、就職活動を始める方も出てきました。私もその流れの中で、就職活動にも取り組んでみました。しかし、自分が所属していた研究室だけは、博士課程に進む方が多く、私を含めた 5 名の同期のうち、私以外の 4 名が、かなり早い段階から博士課程へ進むことを表明していました。5 人中 4 人が進学するというのは、非常に稀なケースだったのですが、皆こういう研究をやりたいと明確に決意していました。博士課程を修了するには博士論文が必要ですし、これまでのような学生気分とは異なる茨の道で、精神的にも大変ということも、理解していました。そこに 4 人とも飛び込むということに、非常に刺激を受けました。この後も少し就職活動を続けたのですが、自分が就職した後に、博士号を持った彼らを見ると、厳しい道を乗り越えた彼らが羨ましく映るだろうなと感じました。羨ましいと思うということは、それが自分のやりたい事です。それを感じた時に、自分も飛び込んでみようかと決意しました。またちょうどその頃、取り組んでいたテーマで結果が出始めており、大きく広がる展望が描けそうなところでした。ここで自分が修了してしまうとそのテーマは後輩に引き継ぐ形になるので、自分で始めたこのテーマを自分の手でやり遂げたいという思いもありました。

博士課程では、テーマにも先生、仲間にも恵まれ、結果を出さないといけないというプレッシャーもありながらも、非常に充実した貴重な研究生を送ることができました。さらに、研究だけでなく、様々な経験をすることができました。自分自身にとって、大きな経験となったのは、アメリカのミシガン大学に 2 か月短期留学させ

て頂いたことでした。たった2カ月だったのですが、一人で、感受性の豊かな学生時代に海外に飛び出すというのは、非常に大きな経験だったと感じています。自分の会社員生活の数年分に匹敵するくらいの濃密な刺激を受けた時間でした。この留学の中では、「自分のキャリアは自分で選択する」という当たり前のことに改めて気づかされました。留学生の中には、フランス人の学生もいたのですが、「どうして、沢山の選択肢があるのに日本の京大の博士課程に進学したのか」ということが話題になりました。私の場合は、修士課程を修了した後は、博士課程に進学するか企業に就職するかで前者を選んだつもりでした。しかし、フランスから単身でアメリカの大学に進学している彼の話を聞いていると、沢山ある選択肢の中から自分自身でこれを選んだという強い意志を持っていることが伝わってきました。私自身も「なぜ、自分がこの研究室で進学したのか」ということを改めて考え直し、「強い意志を持って何かを選択していきたい」と思うようになりました。つい、目の前に見える選択肢しかないように思いがちですが、選択肢はたくさんあること、そしてその中から、自分はこれを選んだと胸を張れるようにしっかり考えて選びたいと思いました。

4. ターニングポイント③：ダイキン工業入社

ターニングポイントの3つ目は、ダイキン工業への入社です。博士課程修了後の進路について考えた際に、キーポイントに置いたのは、自分自身の思い描く未来でした。やりたいことの1つに、自分の家庭を持って子供を育てたいという思いがありました。大学の有機合成や高分子合成系の研究室は、朝早くから夜遅くまで実験に取り組み、土曜日でも実験することが当たり前です。その状況のまま、子供を育てるイメージが全く湧きませんでした。もちろん、自分がパイオニアとなって、道を切り拓くことはできたかもしれませんが、そこまでの勇気は持ち合わせていませんでした。大学よりも企業の方が、仕事と子育ての両立サポートは充実していますし、将来が描きやすかったのは事実です。また、大学以外の企業における研究開発も知ってみたいという気持ちもあり、ダイキン工業に入社しました。

入社後は、化学の研究開発部門に配属されました。そこで、空調用新規冷媒ガスの開発、水処理膜の検討、新規フッ素樹脂の開発、表面機能剤の開発を担当しました。この4つのうち、水処理膜の検討、新規フッ素樹脂の開発、表面機能剤の開発については、私が大学の研究で取り組んでいた高分子化学の領域ですが、空調用新規冷媒ガスの開発については、全く専門外の分野でした。これは、当時の研究部門のトップの方の判断で、自身の専門分野である高分子化学をそのまま活かすよりも、会社で扱う他の領域も学ぶことで、幅広い知識を持ち、活躍して欲しいという意図がありました。大学と同じ分野であれば、最初こそ仕事はやり易いかもしれませんが、技術の幅を広げる機会を失っていたかもしれません。より柔軟に吸収できる若いうちに、幅広い分野を深く勉強する機会を与えてくださったことに非常に感謝しています。

5. ターニングポイント④：出産、子育て

入社してからのターニングポイントの1つは、出産と子育てになります。入社7年目で、最初は男の子、次は双子の女の子を授かりました。私のキャリアを語る上で、会社とプライベートは別個のものではなく、双方が影響し合うものと考えています。キャリアを考える際には、会社だけではなく、人生における自分の生き方と捉えるので、出産と子育ては、大きなターニングポイントでした。出産前は、1つの会社に勤めているという感覚でしたが、子供が生まれてからは、子供に対する責任もありますし、自分がこういう家庭を作りたいという思いもあります。そのため、もう1つの家庭という会社をどのように理想的な形にしていくか、仕事と家庭という2つの会社を回しているような感覚になっています。2つとも責任を持ってやらなくてはならないことがあり、その時々によって、優先順位をつけ、バランスを取る働き方に変わってきています。

6. ターニングポイント⑤：異動、昇進

入社してからのターニングポイントの2つ目は、異動と昇進になります。このターニングポイントで、これまでの化学の研究から労務管理と人材育成担当へ、大きくジョブチェンジしました。同じR&Dセンターの中で、技術系から事務系の業務に変わり、合わせて昇進しました。今までの化学の分野であれば、ある程度、内容も知っていますし、自信もあったのですが、全く知らない分野に飛び込むことになりました。さらに、その分野に関して自分よりもずっと詳しい方達を、マネジメントする側になったことが、非常に大きな転機でした。研究開発部門にいた時には、大学との共同研究や学生のリクルーターの経験もあったので、学生の皆さんとお話をしたり、どの分野が向いているのかを考えたりということについては、面白さも感じていました。その部分は、現在の業務にも活かせると感じています。ただ、スキルも経験もない分野へのジョブチェンジであることに変わりはなく、ここで自分は何を求められているのか、自分が今後どのように進んでいきたいかと真剣に向き合う機会になりました。同志社大学も含め、ダイキン工業は、色々な大学と包括連携を結んでいるので、その中で人材育成にも関わりますし、化学の技術者として関わることもあります。今までの労務管理・人材育成の仕事の枠にとらわれずに、技術者としてできる事、やりたい事もやっていきたいとも思っています。博士課程修了の際には、アカデミアに残ってパイオニアになる気持ちは持てませんでしたが、今はロールモデルがいてもいなくても、前例にとらわれず、何をすべきか、そして自分はどうしたいか、と自分自身に向き合って今後も進んでいきたいと思っています。

※ ご講演の後、参加した学生との間で質疑応答も行われましたが、内容については、省略します。

【文責：高等研究教育院 加治木紳哉】

事前申し込みが必要です

第3回「博士キャリアカフェ」10月21日(金)12:15～オンライン開催 「自分らしいキャリア～やりたいことに正直に～」

本学は、2021年度に科学技術振興機構(JST)「次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)」に採択され、挑戦的・融合的な研究に専念できる機会を用意するとともに、真の国際人となれるよう海外経験の促進、キャリアパスの支援を一体的に行っています。このキャリアパス支援の一環として、アカデミア、企業、官公庁等を問わず様々な分野の博士学位取得者の方から、キャリアパスの選択に関するご自身の経験や現在の状況について伺う「博士キャリアカフェ」(少人数グループによる座談会形式)を定期的で開催しています。講師の先生と、ざっくばらんに情報交換ができる貴重な機会となりますので、奮ってご参加ください。

なお、参加をご希望の方は、事前にお申し込み下さい。

【講師】 塩谷 優子 先生 博士 (工学)

ダイキン工業株式会社
テクノロジー・イノベーションセンター 担当課長

京都大学大学院工学研究科 高分子化学専攻
(2007年3月 博士課程修了)

【構成】塩谷先生のお話(30分)、懇談(30分)

【対象】本学に在学中の学生(学部・研究科は問わず)

【定員】先着20名を予定

※ ただし、同志社大学大学院博士後期課程次世代研究者挑戦的研究プロジェクト支援対象学生の参加を優先します。

【申し込み方法】

- 本ガイダンスはZoomによるオンライン開催となりますので、事前の申し込みが必要です。
- 10月18日(火)までに、右のリンクもしくはQRコードからお申し込み下さい。参加用のURLをお送りいたします。



本件に関するお問合せ先: 研究開発推進機構研究企画課
TEL: 0774-65-8257
Mail: ji-knkak@mail.doshisha.ac.jp